

カナダ連邦議会における演説

太平洋をはさむ隣人

(昭和五十五年五月五日　オタワ)

首相閣下、上院議長、下院議長、上院議員、下院議員並びにご列席の皆さま

本日、ここにカナダ議會を訪れることができましたことは、私の深く喜びとするところであります。特に日本の総理大臣として初めて、こうしてカナダの国会議員の皆さまの前でお話しする光栄を与えられたことを衷心より感謝いたします。

一九七四年に貴國を訪れて以来、私は常に貴國を再訪することを願っております。今回の訪問にあたって、私は勇気をふるい起こして、英語で演説を行うことにいたしました。私の発音はカナダ的に聞こえないとしても、ご勘弁願いたいと思います。なお、この訪問のための準備期間は、フランス語をも習得するには少々短かすぎたことにはなはだ残念であります。「エクスキューゼ・モア」(笑)

本日、私は、日本とカナダに必要とされる協力のあり方に焦点をあてて、お話し申し上げたいと思います。日加兩國は、その文化的背景、歴史的遺産、国土、自然の恵み、あるいは人種構成等、多くの面で対称的な特徴を有しておりますが、他方、多くの共通点を有しております。

われわれは、ともに民主主義と自由を信奉し、

自由で、開放的な経済の原則を守る決意を有し、そして、

公正で平和な国際社会を築くためのそれぞれの努力において、類似の目標を有しております。

私は、したがって、両国の間には、すでに毎年その幅と濃密度を増している経済関係を越えて、さらにより広範な協力関係を推し進めていくための基盤があるものと考えます。

一九八〇年代は、激動のうちに始まりました。イランやアフガニスタンにおける出来事は、われわれが現在の多極化した世界の中で直面する試験の性格を浮き彫りにいたしました。

われわれは、イランの革命の目的とするところを尊重しており、中東のこの重要な国との協力のきずなを拡大・強化したいとの真摯な願いを有しております。しかしながら、われわれは、イランが米国の外交官を人質として引き続き拘束していることを容認できません。これは、この不法行為がいかなる人道的見地からも受け容れられないばかりでなく、国際社会の基本的な秩序に対し、深刻な脅威をなすものであるからであり、それ故にこそ、われわれは、米国に対し、引き続き忍耐と自制をもって対処するよう求める一方、国連を通じて国際努力を全面的に支持し、また、イランに対しても、人質は、直ちに解放されなければならぬとのわが国の立場を繰り返し明らかにし、またより最近では、イランに対し、その不法な行為を止めるよう強く促すため、EC九カ国といくつかの措置を協調してとつた次第であります。

わが国としては、国際社会の責任ある一員として同様の考えを有する諸国と協力しつつ、人質問題の早期かつ平和的解決のために行動していく所存であります。この問題に関し、貴国がわが国と同じ立場をと

つておられることは承知しており、この一月に貴国が果たされた劇的で勇氣ある役割に対し、心からの敬意を表したいと思ひます。

ソ連によるアフガニスタンへの軍事介入もまた、その明白な不法性のみばかりでなく、これが与え得る地政学上の影響からも、世界全体にとり重大な問題であります。したがつてこの問題に対しては、国際平和と安定の維持に真刻な関心を有する国際社会のメンバーが協調して対応することが必要であります。

われわれは、平和を真刻に受けとめており、アフガニスタンにおいて、ソ連が行っていることを非難せざるをえません。したがつて、わが国は、ソ連軍の即時撤退を繰り返し求めてきており、また、このようなソ連の行動を容認しえないことを示すため、具体的な措置を講じてまいりました。われわれは、この深刻な事態のすみやかな解決に貢献するため、同様の考えを有する諸国と協調して引き続き努力をつくしていく所存であります。

そしてまた、この問題についても、私は、貴国がその国際平和に対する強い支持の現われとしてとつておられるイニシアティブに大きな感銘を受け、勇氣づけられるものであります。

新たな挑戦は、政治問題からだけでなく、経済の分野においても生じております。まず、何にもまして重要な問題はエネルギー問題であります。いまやエネルギーが、一九八〇年代、さらに二十一世紀へ向けての世界経済の健全かつ安定した発展への鍵であります。われわれが直面している最もさし迫つた問題の一つは石油の節約であります。節約は、産出国と消費国をともに益するものであり、わが国は、石油消費を削減するための努力を行つてまいりました。一九七三年と一九七八年の間に、日本の国民総生産は

一九・六パーセント拡大いたしました。エネルギーの使用量の伸び率はわずか五・七パーセントに、また、石油使用量の伸び率は〇・七パーセントに抑えることができました。われわれは、また、石油供給源を多様化し、代替エネルギー源の開発を促進するための努力も行っております。私は、カナダが新エネルギー源の開発、たとえば合成燃料の生産および太陽エネルギーやバイオ・マスの利用において最先端にあることを承知しております。われわれは、貴国の努力を賞賛の念をもって注目しており、この分野において、われわれが協力できる多くの機会があるものと考えます。私は、また、エネルギー節約および代替エネルギー源開発のためのわれわれの研究と開発の成果は、開発途上国を含むすべての国に供されるべきであると考えております。

インフレーションも、エネルギーに劣らず深刻な問題であり、われわれの経済的繁栄にとつても敵であります。わが国は、最近、総合的なインフレーション対策を導入し、インフレーションに対する断固とした戦いを展開しております。インフレーションは、その悪影響を通じて国民経済の活力をうばいとり、安定した経済成長の実現を妨げるものであることに疑いはありません。インフレーションは国際的に伝播いたしますが、それが故にわれわれはこの悪質な問題を抑制するため、他の先進民主主義諸国とともに協力していかねばなりません。

ただ、いまふれた二つの問題を含め、どの主要な経済問題も一国の孤立した処置によつては効果的に対処することはできません。すべての主要国が協調して努力することが必要であります。主要国首脳会議は、まさにこの協力の精神に基づき生まれたものであります。わが国政府は、この面で貴国が積極的かつ建設

的な貢献を行ってこられていることを多とし、引き続き貴国と主要国首脳会議およびその他の場で協力していくことを希望しております。

国内経済および世界経済を運営するにあたって、われわれが協調し、努力していくことはもちろん極めて重要であります。これらの努力だけでは十分ではありません。科学技術の進歩は、先進民主主義諸国および世界全体の経済の活力を維持する上で不可欠であります。カナダは、この最も実り多く、そして多大の努力を必要とする分野において世界をリードする能力を有する国の一つであります。わが国も、この分野において多くを行ってきており、科学技術の分野における協力は、両国間の関係をさらに豊かにするものと確信いたします。

日加両国が非常に実りある協力を行いつついま一つの国際活動の分野は、開発途上国との経済協力であります。われわれの長期的な繁栄は、開発途上国の将来に大きくかかっております。わが国は、人づくりが自主的な国づくりの努力の基盤であることを経験に照らし知っており、わが国の援助を通じて、そのような基盤を強化することを重視しております。一九七八年に政府開発援助(ODA)を三年間で倍増することを約束いたしました。このわれわれの努力は成功するものと確信しております。また、われわれは、借款条件を緩和し、GNPに対するODAの比率を改善するため一層の努力を払っております。

私は、カナダが南北問題で一貫して指導的役割を果たしてこられていることを承知しております。たとえば、故ヒアソン氏の報告書「開発と援助の構想」は、国際経済協力のあり方を方向づけたものであります。

アジアの国として、われわれは、経済協力を行う上で、アジアに特に重点をおいております。この点に

関連し、インドシナ難民の定住問題については、わが国も相当な資金協力を行っておりませんが、定住に対する貴国の寛大な政策を高く評価しております。貴国のこの援助計画は崇高な人道的行為であるばかりでなく、アジア・太平洋地域の平和と安定に貢献するものであります。アジア・太平洋地域は、現在世界において最も活力のある経済を有するいくつかの国家を有しております。

太平洋を取りまく諸国間の協力関係を促進することは、同地域の平和と繁栄に寄与するものと考えます。カナダおよび日本国民は、この地域における友好と協力のきずなを強化する上で、特に重要な役割を担っていると考えます。

トルドー首相がかつて「The New West」とよばれたこのアジア・太平洋地域は、カナダの積極的な参画から得るところ大であることを私は信じて疑いません。

われわれは、近年来、日加関係において両国があげてきた成果を誇りにするものであります。日加両国間の貿易額は過去十年間に五倍に伸び、日本はカナダにとって第二の貿易相手国となっております。日加両国は政治上の諸問題について密接な協議を維持しており、また、文化、学術交流も、東京においてトルドー首相と当時の三木総理との間で署名された日加文化協定により固められた基盤の上に深みを加えてきております。しかしながらこれは始まりにしかすぎません。日加協力の地平線は、はるかに大きく広がっているものであります。

最近の出来事は、先進民主主義諸国間のより緊密な協力と協調が必要不可欠であることを如実に示すものであります。このような意味で、これからの十年およびさらにその先の将来において築いていくべき世

界について、共通のビジョンを有している日加両国は、有益かつ建設的な役割を果たしていくと信じます。本日、私は、トルドー首相とお互いに関心を有する多くの問題につき、広範かつ極めて実り多い話し合いを行いました。その結果、私は、日加両国は単に太平洋を挟んだ隣人であるばかりでなく、共通の関心と利害を分かち合う真に親密な友人であるとの確信を深めるに至りました。われわれは、国民の繁栄を目標としております。しかし、私は、われわれは単に統計数字上の成功を求めているのではないということ、しばしば実感いたします。われわれが求めている豊かな生活とは、われわれにより深い満足感をもたらしてくれる生活であります。われわれは、われわれの子孫が生まれしてきたことを誇りと感じることできるような世界をつくり上げるために努力をしているのであります。

私は、カナダはその国民に豊かなめくまれた生活を提供していることを知っております。私は、また、これは、カナダ国民が祖先から引き継いできた文化的、社会的、経済的遺産と、民主主義の伝統の結実であることを承知しております。日本も同様に、祖先の努力の恩恵を受けております。私はこの遺産をさらに豊かにし、われわれの業績を将来の世代に引き継ぐことがわれわれの義務であると考えます。この重要な責務に対処するに当たって皆さまと一緒に協力していこうではありませんか。ありがとございました。

(参考)

この演説は、カナダ連邦議会において、英連邦諸国以外の外国の首相が行うものとして、はじめてのものであり、日加関係の重要性を強調したものととして注目を集めた。この演説は英語で行われ好感を呼んだ。